

2022年2月21日

お得意先各位
お取引先各位

第一硝子株式会社
代表取締役社長 長谷川雅之

第一硝子における地球温暖化問題に向けて
～ 二酸化炭素排出量削減について ～

私たちの住む地球は、産業革命以来気温の上昇が続いているといわれています。

この気温上昇は、二酸化炭素を中心とした温室効果ガスによる地球温暖化の影響であるといわれ、対策を講じず気温の上昇が続けば、2050年には最大2.6℃、2100年には最大4.8℃もの気温上昇が見込まれています。また極端現象と呼ばれる世界的な長期的洪水や高温記録などが観測されており、これは気象変動の影響が指摘されています。

これを防ぐために、2015年に採択された「パリ協定」では「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に保つとともに1.5℃に抑える努力を追求する」こととされました。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)によれば、2050年までに二酸化炭素の排出量をゼロにすることで、66%の確率で気温上昇を1.5℃に抑えられます。

つまり地球温暖化の影響を可能な限り抑えるためには、二酸化炭素=CO₂削減の努力が必要となります。

当社においても過去、主燃料変更(重油から天然ガス)その他の努力をしてまいりましたが、また新たな削減案を策定し全社挙げてすべての項目に対してCO₂削減の課題に向かっていく所存です。

その削減案の具体的内容は本年2022年9月までに生産本部・技術本部・営業本部・管理本部ごとに社内協議し公表します。

その前提となる数字的目論見は以下の通りです。

- ① 2019年度を基準年とした削減案を作る。
- ② 削減量の目標は、30%減とする。
- ③ 2022年度中に削減案を実行に移す。
- ④ 2027年度まで5年間で達成することとする。

我々ガラス容器産業の年間出荷トン数は1990年の243万トンピークに年々減少傾向が続き2021年1月～12月までの出荷トン数は90万トンにまで減少しております。

その主な要因として、比較的内容量が大きく重量のあるガラス容器から利便性の高いプラスチック容器（PET など）への変更が進み、近年小容量の製品にまで素材変更が進んできていることがあげられています。この20数年の間、比較的安価で「利便性」のみを追求した結果、プラスチック素材の製品が大量に普及し従来の循環型社会の構造が崩れ、その結果地球温暖化問題と同様に取り上げられております「マイクロプラスチック汚染、海の環境問題」も新たな社会問題として注視していかねばなりません。

マイクロプラスチック海洋汚染の問題は、地球温暖化問題と同様に今求められている大きな課題です。第一硝子としてガラス素材の持つ強みである資源の循環の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を更に推し進めていきます。また、優位性を持つ容器を扱う企業としては、次の3項目を追求していきたいと考えています。

- ・強い嗜好性や非日常性といった「情緒価値」
- ・外食や土産物といった「業務用市場」
- ・医薬・化粧・食品分野などで求められる「高いバリア性・耐薬品性などの安定性」

マーケットの信頼を長く維持していくために、上記「二酸化炭素の排出量削減案」を実行し、ガラス素材の安定性・優位性を広く訴えていきたいと考えています。社員一丸となって目標の達成のため努力をいたします。